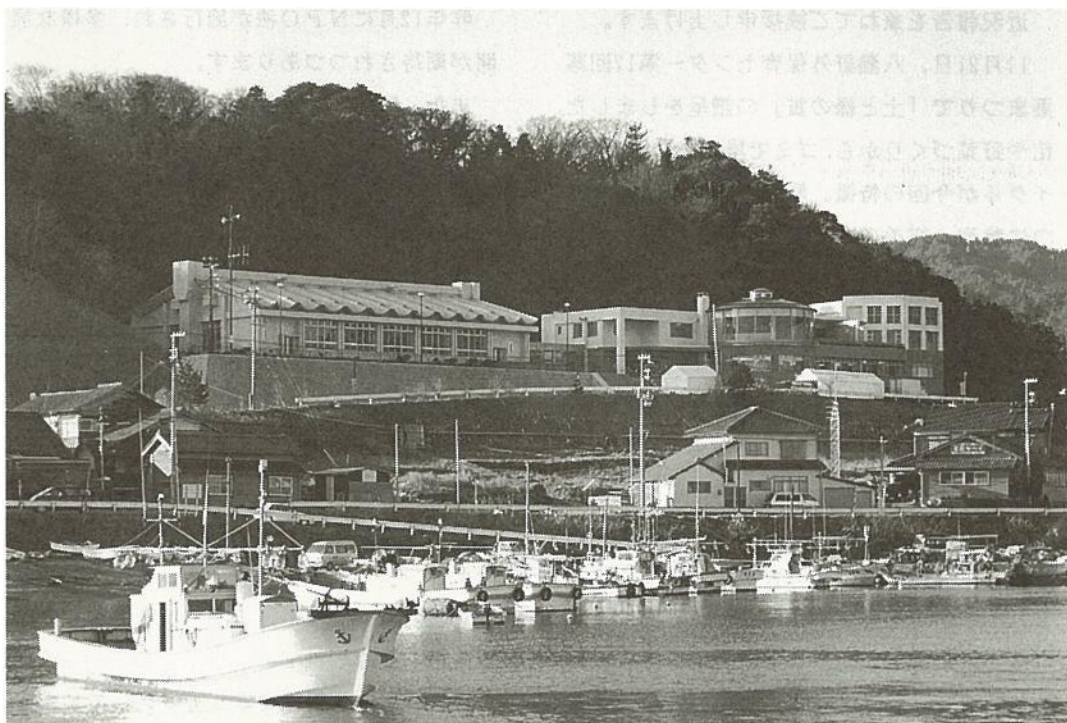


アルパック ニュースレター

迎 春

平成11年元旦



網野町新浅茂川温泉浴場「静の里」がオープンしました（本文中に関連記事があります）

アルパック ニュースレター もくじ

1999年1月1日

- あけましておめでとうございます 2
- 「静御前と義経ゆかりの恋物語」 5
- 地域のまちづくりを考えるワークショップ 8
- 「車いす対応トイレガイドマップ」の作成を
お手伝いしました 8
- うまいもの通信 10
- 新刊旧刊書評紹介 11
- まちかど 12

NO. **93**

あけましておめでとうございます。

次世代に 感動をありがとう

取締役会長 三輪 泰司

近況報告を兼ねてご挨拶申し上げます。

11月21日、八瀬野外保育センター第17回落葉まつりで「土と緑の賞」の贈呈をしました。花や野菜づくりから、ゴミで堆肥をつくるリサイクルが今回の特徴。昨年末近く、結婚式二つに参列。従弟の次男はラグビーの選手で、今はIT研究所のホープ。谷川俊太郎の詩を引用してお礼を述べたお嬢さんと一緒に山村の子らに影絵芝居を奉仕している。10年前、地区委員長の時、アメリカへ派遣した国際青少年交換学生同士が結婚。立派に成長した二人を前に、「ミワ君ヤッタね!」と叫びたくなった。

ロータリーに「He must profit who serve the best- 最も奉仕する者が最もむくわれる」という標語があります。むくわれるとはこういうこと。また、ミラノ工科大学へ行っていたロータリー財団奨学生の子が帰り、今年ウイスコンシン大学へU嬢が行きます。両名のカウンセラーですので、息子・娘の気分。

年末、現下の状況に備え、会社の部長・次長級の集会。40歳代のなんとすごい連中が揃っているのかと感心した。彼らは次の30歳・20歳代を鍛えないと言っています。はて、自分は40代に何をしていたらだろうか。学研都市構想第1次提言に続き、第2・第3次に熟中していました。建築家・プランナー、企業経営者、教育研究者、3つの顔で、どの分野も薄っぺらいと気にしていましたが、無我夢中の20年、それぞれに何とか厚みがついてきたようです。最大の楽しみは、子供達や若者達と接することです。人を育てるのが最高の道楽と言っていた祖父を思い出します。次世代のための奉仕を軸に据える年になりました。

参加・連携で地域の活性化をはかろう

代表取締役社長 金井 萬造

昨年12月にNPO法が施行され、多様な展開が期待されつつあります。

また、昨年、日米草の根交流サミットに参加してアトランタを訪問し、コカコーラやCNNの本社、オリンピック開催都市のすばらしい街づくりを見学しました。

私は、同サミットでパフォーマンスアートとビジュアルアートの分科会に出席するとともにアトランタの都心地区の活性化に取り組むNPO組織のCAP (Central Atlanta Progress, inc) を訪問しました。

CAPは都心の経営代表者で組織され、行政と連携して都心の美化、歩きやすさ、安全なまちづくりを進めています。事業は会員の会費収入でまかない、また、特別寄付や企業の協力で進められています。一方で、行政からの事業も協働組織を通して執行しています。例えば、美化事業は市から50万ドル、企業から300万ドルの予算で実施しています。

社会サービスとして従来の対策で解決しにくい犯罪防止、ホームレスセンターやコミュニティ裁判所による自力更生を助けています。これらの事業により都心地区がよくなるだけでなく、メリットが土地所有者に波及することから、寄付金でなく税金(目的税)を課しています。今回の訪問で一歩一歩着実に前進している米国のエネルギーを感じました。

日本でも、行政、企業、国民が地域やコミュニティからの活性化をはかるべく種々の工夫と行動を起こしたいものです。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

今年もよろしくお願ひ致します。

地域間競争で新しい時代を切り拓く

京都事務所長 山口 繁雄

あけましておめでとうございます。

皆さんよく御存知のとおり、新しい全国総合開発計画は、「21世紀の国土のグランドデザイン」ー地域の自立の促進と美しい国土の創造ーというタイトルを付けています。

右肩上がりの工業社会が成熟段階を迎え、新しい展望を切り拓いていかなければならない時代に差しかかっています。この国土計画の策定に関わった方のお話では、今回の計画は、初めて「経済」から「文化」へ重点を移したということでした。

工業社会の次の時代を牽引するのは「文化」であり、「文化」が新しい産業を産みだし、豊かな生活文化を実現させる、そういう時代が到来したということでしょうか。

その場合留意すべきは、これからの社会経済は東京発の画一的な文化だけでは、どうにもならないように思います。国内の各地域が切磋琢磨して文化に磨きをかけ、新しい産業と生活文化を創造していく、そうした発想と取り組みの中で、地域の自立や地方分権が現実のものとなるものと思います。

京都市では、今、新しいグランドビジョンを求めて検討が進められています。歴史文化ストックを活用したデジタルアーカイブによる新しい産業創造の取り組みもいよいよ本格的になりつつあります。

日本文化の宝庫ともいえる京都は、素材が豊富にあり、新しい文化の創造に大きな責務を持っている代表的な都市の一つかと思えます。私共も、この文化蓄積を背景とした新しい都市づくり、地域づくりに積極的に参画していきたいと考えています。

人間の価値、地域の価値、地球の価値をみつめて

大阪事務所長 杉原 五郎

住宅・都市整備公団の方から、一冊の本をいただきました。「まちづくりには夢があるーキムドン・ある都市プランナーの足跡」という本です。この本は、大学で都市工学を学び、日本住宅公団（当時）に入って30年余り都市づくりのプランナーとして奮闘されてきた、キムドンこと木村光宏さんについて書かれたものです。キムドンは、名古屋支所を皮切りに、本社、関東支社、西国分寺再開発事務所、東京支社、本社で主として都市再開発事業を担当され、地区計画制度の研究や再開発事業制度の創設などに尽力されました。50代半ばで帰らぬ人となったキムドンについて、仕事や海外旅行で苦楽をともにした仲間や先輩・後輩・知人による人間味溢れる追悼の言葉が記されています。

実を言うと、私は、大学を出るときの第一志望は日本住宅公団でした。都市づくりとまちづくりに大きな夢と希望を持っていましたが、残念ながら公団とは縁がなく、アルパックに入ってシンクタンクと都市計画コンサルタントの仕事をする事になり、25年（四半世紀）が経過しました。昨年の夏には35年ぶりの中学校の同窓会があり、秋には高校時代のクラブ（文芸部）で一緒だった同期生の会に参加し、旧交を暖めることができました。

50歳という大台に乗り、人生について深く考える年となりました。残された貴重な時間を有意義に活用して、地域や社会にどのような貢献ができるか思いをめぐらしています。人間の価値、地域の価値、地球の価値をみつめ、これらの価値をさらに高めるようにできればと思います。

あけましておめでとうございます。

21世紀をいかに迎えるか
名古屋事務所長 尾関 利勝

めでたく年が明けて、いよいよあと2年で21世紀を迎える。巷では新世紀への行進曲が鳴り始めそうな、まさに世紀末。百年前、世紀末から新世紀へ移る西洋ではジャポニズムからアールヌーボー、セセッションからバウハウスの潮流に見るように産業革命後の近代文化の揺籃期～成熟期を迎え、日本は生活と社会の仕組みを西歐化させる近代産業国家への歩みを始めた転換期～創生期であった。

この百年、日本は前半のヨーロッパ化と戦後のアメリカ化の二つの異文化トレードを体験し、今世紀末は、コンピュータの兆しを感じさせながら、近代の価値観が大きく揺らぐ、社会と文化の転換期を迎えている。

新世紀の展望を歴史のモデルに習うなら、百年前のヨーロッパ、さらに百年遡った18世紀江戸の連を思い起こさずにはいられない。

閉塞された社会状況から、新たな地域おこしと啓発に情熱を傾けたヒューマン・ネットワーク＝連の渦は、文化の転換と創造に様々な足跡を残した。このような人の連が渦巻く状況が今の日本にふさわしく、望ましい。

昨年来、名古屋の近代化を象徴する白壁町近代建築住宅の町並み保存に端を発した現代の私塾運動「白壁アカデミア」に多数の市民が参加して、一つの実験が試みられている。

11月には東海地域の町おこし実践家を中心とした日本初とも言える「まちづくり研究交流集会」に、関西からの参加を含めて500名以上の参加を見た。これらの動きに関わり、ヒューマン・ネットワークが時代の転換と新しい価値観創造の契機になることを志しながら、新世紀の到来を迎えたいと願っている。

“トンボの目とありの足”を持った
プランナーを目指して
東京事務所長 小林 佑造

今、地域をめぐる社会状況は厳しいものがある中で、業務とともにボランティア的取り組みも増加してきています。

時代の変化は過去の常識を塗り替えていきます。いい換えれば、これまでの常識が常識ではなくなってくる時代がやってきているとはいえないのでしょうか。現代はその常識だと思われていたことを打ち破ることによって、新しい常識が生まれるチャンスのもいえるのではないかと感じています。

昨年、業務の中で農産物直販所を調査する機会があり、20あまりを廻って感じたことは、元気な地域おこしの一環が始まっているということです。運営形態はまちまちですが、施設は行政がつくり、運営は地域の高齢者を中心とした兼業農家の人達が行っています。自分達では農業は値段が決められない、またその方法はないのかという思いから個人参加による組織づくり運営も行われています。その結果、地域の連帯がより一層密になり一人一人元気が出て、収入は個人差があるもののこれを機会に専業農家になった人も現れてきているとのことでした。

昨今の社会情勢から感じている今日楽主義の方向が強い中「自発性と自己責任に基づく共同の福祉」が地域でつくられ始めなければいけない時代ではないでしょうか。プランナーであるためには「トンボの目とありの足」といったように、多様な立場からの視点を持ち広く遠くを見る目を持ち、かつ、非常に身近な、現実的な視点を堅持し、きめ細やかな行動力を持つ。再度気を引き締めてこれに近づけるように粘り強くこだわっていきます。

今年もよろしくお願ひ致します。

より一層のコンセプト力とコーディネート力が求められる時代に！
九州事務所・(株)九州地域計画研究所
代表取締役 山田 龍雄

数年前、某自動車会社のイチローのコマーシャルに「変わらなくちゃ！」というのがありました。今、遅ればせながら町づくりや住民の意識にも変革の風が吹き寄せてきているようです。

それは、昨年の福岡市長選ではこれまでの市の元氣と開発をリードしてきた現職の市長が破れ、開発を抑制することをスローガンにした新市長が誕生したこと、また福岡市近郊のある市では、前市長が進めていた総合公園に反対し、高齢化・少子化対策や生活基盤の充実を訴えた新市長が当選したことにも現れてきているようです。

一方、バブル期に事業化した第3セクターでは、当初の過剰投資や責任体制の曖昧さ故

に経営が行き詰まってしまったものや関わった自治体の一般財源をつぎ込み、かろうじて運営しているところもみられ、抜本的な見直しを余儀なくされています。

九州での都市計画やまちづくりに関わるコンサル業界では、新規事務所の増加、土木系コンサルタントの川上部門への進出、中央の大手コンサルタントの地方進出など関係事務所が増加した反面、仕事量や委託金額は減少傾向にあり、営業環境は一段と厳しくなっています。このような状況においてはより一層、変化の波を捉えたコンセプト力やコーディネート力がないと継続的な仕事の確保は難しいものと思います。

年明け早々、何かと厳しい話となりましたが、今年も所員それぞれが知恵を出し合いながら、地域のニーズに応えられる計画づくりを励んでいきたいと思っておりますので、本年もよろしくお願ひ致します。

「静御前と義経ゆかりの恋物語」

網野町新浅茂川温泉浴場「静の里」がオープンしました

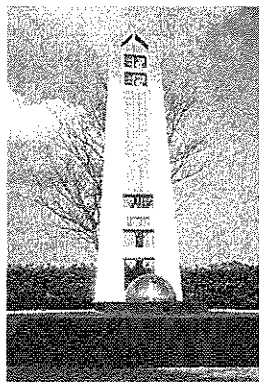
高坂 憲治

京都府網野町は東経135度、日本標準子午線上の日本最北端に位置する町です。町のほぼ中央の八丁浜を境にして西が山陰国立公園、東が若狭湾国定公園に指定される海岸線は風光明媚で、中でも歩くと「キュッキュッ」と音のする鳴き砂の浜辺「琴引浜」は網野町の海の自然を象徴するものです。網野町は冬のカニに代表されるように日本海の豊かな海の幸に恵まれ、多くのグルメを魅了しています。また、丹後ちりめんの生産量は日本一を誇っていますが、繊維産業の不況はこの町にも重くのしかかっています。

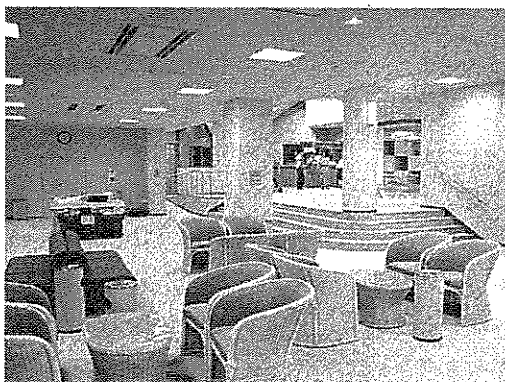
網野町には1,200年の歴史をもつ木津温泉をはじめ6つの温泉があり、日本海の景観と味

覚とあわせた観光資源として大きな役割を果たしています。このうち浅茂川温泉浴場は町がもつ温泉で、浅茂川漁港を見下ろす丘に立地しており現在の施設は昭和54年に建設されました。丹後で初の温泉プールを併設したこの温泉浴場は、近隣の人々に親しまれ、年間約8万人の利用客がいましたが、残念なことに浴室が山側を向いていて折角の日本海を見ることができないこと、また近年周辺地域に新しい温泉が整備されてきたことから、新たな温泉として生まれ変わることを多くの町民から望まれてきました。

新浅茂川温泉浴場の計画にあたり、その基本的な考え方を以下のように提案しました。



日本標準子午線 最北の塔



展示・販売コーナー



ロビー

- ①網野町の通年型観光拠点とする。
- ②網野町をアピールし、発信する拠点とする。
- ③町民の憩いと安らぎの拠点とする。
- ④既存の温泉浴場の施設を活用すると共に温泉プールとの一体的活用や運営を行う。
- ⑤日本海を臨む立地性を十分に活かす。

丹後地方には「丹後七姫伝説」が語り伝えられています。丹後地方にゆかりの7人の女性にまつわる物語です。丹後町の「間人（はしうど）皇后」、大宮町の「小野小町」、伊根町の「乙姫」、峰山町の「羽衣天女」、弥栄町の「細川ガラシャ」、宮津市の「安寿姫」、そして網野町は「静御前」です。

静御前は網野町で生まれ、源義経の側室として共に京を脱出、義経の死後故郷の網野町に戻り、20余歳の若さで波乱の人生に幕を閉じたと伝えられています。新浅茂川温泉浴場はこの「静御前」に因んで「静と義経」の恋物語をテーマに展開しており、2つの浴室はそれぞれ「静の湯」、「義経の湯」と名づけられました。



「静の湯」

「静の湯」は女性らしくたおやかで優しいイメージから円形とし、浴槽にも曲線を取り入れ、柔らかく静かで落ち着いた雰囲気をもたせ、ゆったりと海を眺められる浴槽メニューとしました。また、浴室には白拍子であった静御前に因んで舞台をイメージした休憩あずまやを設けています。

「義経の湯」は男性らしく豪胆でありながら格を表すものとして格子をイメージし、縦横無尽に駆け巡り軽やかで動的な義経に因んで動きのある浴槽メニューとしました。浴室の仕上げは海の町網野と義経の八艘飛びから「舟板」をイメージしたヒノキ板としました。

新浅茂川温泉は既存の浴場に増築する形で計画したため敷地に余裕が少なくそのため浴室を3階に設置し、2階に休憩室やレストラン、網野町の特産物や情報を提供する展示売店コーナーを設けました。

レストランは浅茂川漁港を眼前にして網野町の海の幸を堪能できるように浜焼きコーナーに特徴があります。ゆったり温泉に入った



「義経の湯」



レストラン「おり姫」



竣工式 テープカット

後、出船、入船、沖の漁り火を見ながらの海の幸の浜焼きに舌鼓を打つのは設計した私の夢でもありました。レストランの天井には天の川をモチーフとした照明を散りばめ、窓に映って遠く日本海の空に続いています。

既存の温泉浴場は高齢者やハンディキャップのある人にもこの温泉を楽しんでいただけるように、1つは車椅子のまま利用できるようにリフトを備え、介助する人と共に入浴できる「やすらぎの湯」として、1つは家族で気軽に入浴できる「ふれあいの湯」として改修再生しました。もちろんエレベーターやスロープの設置によりどの浴室や施設も利用することができます。

この温泉浴場は海の温泉そして静と義経の恋物語にこだわった温泉です。そのためどこからも四季折々の表情をみせる日本海の眺望を十分取り込むように開口部の大きなデザインとしました。また、漁港や日本海を眼下にできる丘に建つこの温泉は、傾斜地に建つ施設としての安定感をもつと同時に背後の緑と呼応するようなリズム感をもたせることにより、緑豊かな丘と寄せては返す波のハーモニーを表現できるデザインをめざしました。

3階建てのこの建築の1・2階を基壇部として大地をイメージし、3階浴室部分をリズム感のあるデザインとしました。「静の湯」は円形を強調したガラスのデザインとし、屋根は笠をイメージしました。静御前が義経

との逃避行の際にかぶったであろう笠です。

「義経の湯」は内部の義経のイメージを外部に表出させるように格子を基調としました。

海から見るとこの2つの浴室（静と義経）が強調され、夜ともなれば2つの浴室（2人）が寄り添うように光を放って浮かび上がり、町民のシンボルとなるでしょう。

色彩は基壇部を網野の大地に海が映し出されるように「淡い碧」、3階部分は静と義経の清楚さと日本海の波をイメージした「白磁の白」としました。そしてこの2人を細い赤い糸が結んでいます。また、内部は日本の伝統の十二単のような襲ね色をイメージした若々しい色彩としました。

そしてこの新浅茂川温泉浴場は町民からの応募により「静の里」と名づけられました。

最後に、この温泉浴場の計画を始めた年末、ロシアのタンカー「ナホトカ号」沈没事故による重油流出が発生し、町の担当者はじめ町民の方々が大変な苦勞をされました。琴引浜の鳴砂も鳴らなくなるのではないかと心配されました。ですからどうしても年末には新しい温泉浴場をオープンし、帰省されてくる町出身者の方も交えてゆったり暖かい湯を楽しんでほしいと願い現場に通いました。町の方々と工事関係者の方々のご努力により、無事12月19日に竣工式が行われ、12月27日から営業されています。皆様へ感謝します。

（大阪事務所 こうさか けんじ）

京都市南区基本計画
 ～地域のまちづくりを考えるワークショップ～
 森川 宏剛



ワークショップ風景

京都市では、現在「21世紀京都のグランドビジョン」と並行して、地域別計画にあたる「行政区別基本計画」の策定が進められており、京都事務所でお手伝いをしています。

今回は、その中で、南区において取り組まれた「地域のまちづくりを考えるワークショップ」についてご紹介します。

南区では、計画を策定していくに当たり、市民参加の取り組みとして、まず子ども達の意見を聞き、それを受けて大人達も一緒に将来を考える取り組みへと積み上げていくことを考えました。

取り組みの流れは、(1)各小・中学校で子ども達の意見をまとめる。(2)各校の取り組みを発表し、それをうけて親と一緒に話し合うワークショップの開催。(3)成果を広く公表するとともに、計画策定に活かす。という3ステップです。

まず南区内の小・中学校の子ども達に、率直な視点で、現在と将来の南区について考えてもらいました。小学校では、校区の現状と将来について、夏休みや地域の勉強をする授業を活用し、模造紙にその成果をまとめていただきました。中学校では、環境問題や人権問題、駅前の整備などテーマを決めてもらい、将来に対する提言をまとめてもらいました。

ステップ(2)のワークショップでは、生徒、保護者、約250人の参加者が集まり、各校の発表のあと、17のグループに分かれ、各校区の将来像とキャッチフレーズを考えました。

子ども達の意見は、お年寄りとの交流や自然とのふれあい、マナーの向上など現実的な意見が多く、大人は子ども達の鋭い視点に感

心していました。

これらの成果は、今後南区基本計画の中に活かしていくこととなります。

今、京都市では、区役所の機能拡充に向けた大きな流れがあります。この行政区別基本計画は、その試金石とも言えるものであり、今までの地域別構想と違い、区役所が地域づくりの拠点としての役割を発揮し、地域の特性を活かしたきめ細かなまちづくりを進めていくことがねらいと言えます。計画内容はもとより策定過程についても、いかに各区の独自性や創造性が発揮され、地域住民の主体性が打ち出されるかが大切だと考えています。

(京都事務所 もりかわ ひろよし)

「車いす対応トイレガイドマップ」の
 作成をお手伝いしました
 池田 さちよ

昨年度、豊中市で策定された「GUIDE MAP車いすトイレガイドマップ」の作成のお手伝いをしました。

豊中市における福祉のまちづくりの取り組み
 豊中市では、昭和57年に「福祉のまちづくりのための環境整備要綱」を策定し、障害者や高齢者をはじめ、すべての市民が安心して利用できる施設の整備を進めてきました。

その後、大阪府を始め全国の地方自治体においても、次々に福祉のまちづくり条例が制定されるなど、全国的な福祉のまちづくりに

対する関心の高まりの中で、豊中市では、要綱の全面的な改正を行い、平成7年に「福祉のまちづくり整備要綱」を策定し、施設の整備・改善を進めてきています。

ガイドマップ作成のねらい

「トイレ」は私たちが日常生活をおくる上で欠かすことのできないものです。特に外出先でのトイレの存在は行動範囲に大きく左右します。

お年寄りや障害をもつ人々、特に車いすを利用される人々にとって、買い物や通勤、通学、食事など、安心して外出するためにも、車いすで快適に利用できる「トイレ」の存在は大切です。

外出する際、どこの施設に「車いす対応のトイレ」があるのか、施設や建物のどこに

(階や場所)あるのかが事前に分かることも大切です。また、トイレに行くまでのアクセスや車いす利用者用駐車場、エレベーターの整備状況も大切な要素です。このたびのマップは、車いすを利用される方々が、事前に行き先のトイレの存在を確認でき、少しでも外出が快適なものとなるよう、外出の際のガイドとして活用していただくためのものとして作成したものです。

ガイドマップの内容

本マップは、地図上に施設を表示したものと施設別インデックスとで構成されています。

豊中市を6つのブロックに分け、ブロック内にある施設を目的別に19に分類し、地図上

にサインをプロットしています。それぞれのページには市全域の縮小地図にブロックの位置と施設サインの凡例とを載せました。

施設別インデックスには、施設名、所在地(電話番号も)、利用可能時間及び休日、トイレの場所と形態(男女別、男女兼用、ベビーベッド設置、ウォシュレットなど)、施設整備状態(車いす利用者用駐車場、スロープ、福祉対応エレベーターなど)を載せました。

また、主要駅の構内配置図も載せました。

ガイドマップ作成を通して

さて、マップづくりの調査のため、学校、公園等訪問させていただいた施設数は280件に及びました。その内、該当する施設が今回のガイドマップの169件です。一番整備が進んでいるのは市役所をはじめとする公共施設でした。

最も少ないのは飲食店と地下街でそれぞれ1件のみでした。

今回、マップづくりを通して気になったことがあります。1つは、トイレの形態です。ほとんどが男女兼用であり、男女別はわずか22ヵ所(全体の7.7%)しかありませんでした。一般のトイレは、男女別が当たり前になっている中で、少し考えさせられました。

また、車いす用トイレが設置されているにもかかわらず物置になっているところや、スペースは基準に達しているものの便器や手洗いの配置の関係で使いにくくなっているもの、

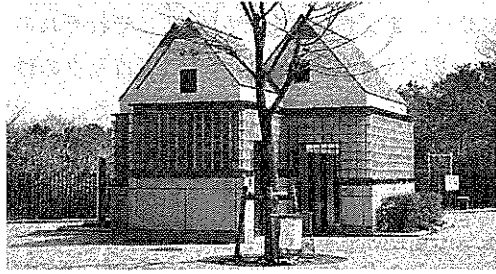


ベビーベッド



車いす対応トイレ
(ベビーベッドは右側に設置されています)

さんきょう 近況 さんきょう 近況 さんきょう 近況 さんきょう 近況 さんきょう 近況



千里中央公園内の身障者トイレ

折角設置されているながら、鍵がかかって自由に使えなくなっていたり、いたずらで壊されていたりしたところも数箇所見られました。

この調査を通して、さまざまな施設を訪問させていただいた中で、整備が行き届いた施設も数多く見られました。しかし、実際にその施設へ行くための交通手段を探すのがなかなか大変です。鉄道駅は概ねエレベーター等

の整備は進んでいましたが、バス交通などはまだまだといった所です。今後、福祉のまちづくりを進めていく上で、施設整備とあわせた交通手段も大切ではないでしょうか。車いすを利用される方が1人で自由に行動することの大変さを改めて感じさせられました。

このマップ作成しながら、どんな方が利用して下さるのか、気になっていました。若いお嬢さんやベビーカーを押しているお母さん、お年寄りなど様々な方々の姿が浮かんできました。外出することが楽しくなるようなハンディなマップとして、気軽にハンドバッグやポケットに入れて活用していただければと思います。

(大阪事務所 いけだ さちよ)

うまいもの通信⑥
遠山伝説の味“ふじ饅頭”
阪井 暖子

ここは長野の伊那谷に深く抱かれた遠山郷、長野県下伊那郡南信濃村の「殿町の茶屋」。

「ここのそば饅頭は人気でねえ。すぐ売り切れちゃうんだよ。お昼過ぎになくなっていることも結構多いんだよ。」ふーんそうなんだ。

「ふじ饅頭」。随分ロマンチックな名前。何はともあれ食べてみよう。

少し小ぶり。黒い点々があるお蕎麦色のお饅頭を指でつまみあげると意外に重い。

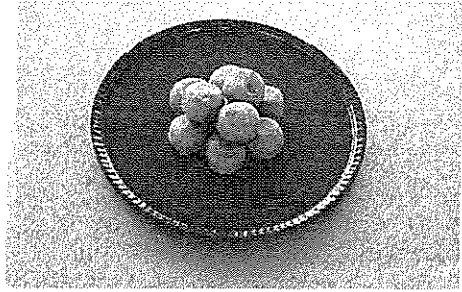
はやる気持ちを押さえつつ、店のおばさんが、ぷっくりとした手で1つ1つ包んだセロハンをはがして、さてまず一口。「これ、おもち？これって私の舌の記憶にきざまれているほら、あれ…そうそうそばがきに似ている！」
(とするとわさび醤油で食べて美味しいお饅頭ということになるのか?)

さて餡はどうだろう。これもこの村でとれたあずきを基本的には使っているんだといっ

てたけど…。お、素朴な甘さ。もっとじっくり味わって見よう。もうひとつ。うん。あずきの味がするねえ。うん。うん。あ、もう一個食べちゃった。じゃあもうひとつ…。という具合にあっという間に1箱はなくなりそう。こんなに食べたなら「ふじ姫」もスタイル維持が…と危ぶまれますが、これはきつとローカロリーかつ、お蕎麦の成分で健康にもいいはず。大丈夫。

さあ、食べたくなったでしょう。では、これを作っている南信濃村の特産物加工組合「かたくり」に電話しましょう。電話番号は0260-34-5623。素朴な田舎娘「ふじ姫」との幸せなひとときを、どうぞ…。

(東京事務所 さかい あつこ)



新刊旧刊書評紹介

赤瀬川 原平 著

筑摩書房

『老人力』

紹介 馬場 正哲

先日土曜出勤で、本も読んでなかったのに降りるべき大阪城公園駅を通り過ぎている。いつもだと仕舞ったと慌てるどころ、「アッ、これだな。老人力がついてきたな。」と、ほのぼのとした未知の充実感に満たされた。この本は、そういう忌まわしい老化といわれる現象を、創造力に読み替える視座を与えてくれる。

著者の赤瀬川原平氏は若かりし頃、朝日ジャーナルなどで過激な元気人の印象を記憶していたが、例の藤森照信氏等の路上観察学会のメンバーで、この活動のなか、「えーと、ほら、あの、あれに出てた……」「そうそう、あれでしょ。あの、ほら、あれ……」など、自らの老化現象を仲間から揶揄、観察されて、「老人力」なるものを発見するに至ったという。また、この本には路上観察によるこだわりのライカで撮った写真が、ほぼ無関係に掲載されている。この無関係の関係がいかにも「天命」を知ったような深みと落ち着きを醸し出し、この老人力という未知力をさらに浮き彫りにしているともいえる。

最近、同輩をみて気づくことがある。私もである。50歳を直前にして、経験も踏んだがあとがない。そこで現れるのが、妙に達観して断定的になったり、教育的になったりするアレである。このように自分達の今が、まさに忌避されるか未知力と評されるかの瀬戸際であるように思う。

さて、今まさに変革の時代である。私ども団塊の世代が育った「産業社会」の画一化、階層化、合理化の時代から、「ポスト産業社会」の差異化、個性化、ネットワーク化、メ

タ合理化の時代へ移りつつあるという。どうやら価値観の変質がこの老人力なるものと関係を持つのではないか。ひょっとすると世の中の変化に若

者が敏感に反応するのと同様に、初老に入ろうとする世代が敏感に共鳴しだしているのか。その初老が我々団塊の世代であって、何やらムズムズ、再び役割を演じる時が到来するかと予感したりもする。

NHKなどの文化教室に、多くの熟年後期の人々が、私は何を学べばよいのかと群がる現象がみられるという。悲しい哉、文化無縁の世代である。多少奇異な現象を伴うとしても、これから第二の人生に突入する団塊パワーはこの国をまた動かすかも知れない。

しかし、老人力は所詮老化現象である。少し違えば、他人を省みないオバタリアンや気短な自画自賛居士の独善に変わりない。その違いを見極める必要がある。たぶん人それぞれの個性に彩られる必要があるように思うが、既成の枠組みにとらわれず、社会関係やコミュニケーションによる絶え間ない研鑽がどうやら必要で、そのような実践の場として地域のまちづくりが重要なフィールドとしてイメージされる。老人力のなせる空想である。

(大阪事務所 ばば まさあき)



まちかど

梅田に新名所が登場！

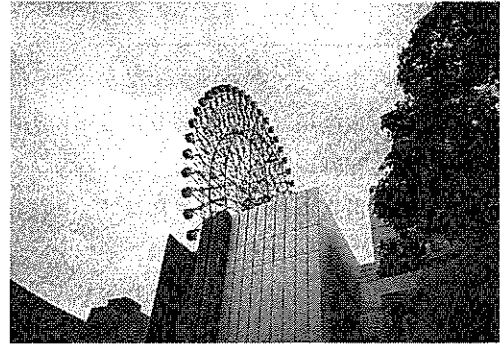
吉村 礼子

とうとうできてしまいました。屋上に大観覧車のある都市型ショッピングセンタービル“HEP FIVE”が…。まわりにビルがひしめいている大阪・梅田の繁華街のあの空間にまさか観覧車なんてと思っていたのですが、ほんとにできてしまいました。しかも全部真っ赤で、とてもインパクトがあります。直径75m、最頂部の高さはビルの25階に相当する106mだそうでかなり大きいです。ビルは10階建てで、7階部分から乗り降りします。外観はちょうどビルをくり抜いたかたちになっています。買い物の帰りにチョット乗っていかうかと思える手軽さもあります。

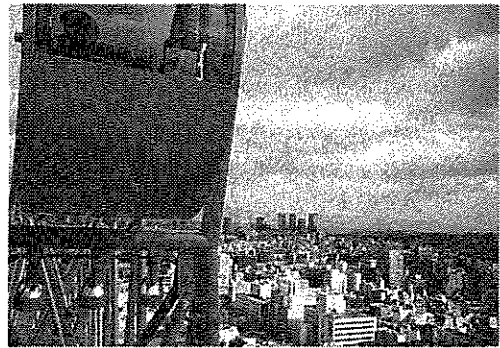
さて、観覧車といえば、少し揺れるところがスリルがあって面白い（怖い？）のですが、この観覧車はゴンドラの揺れを抑える為に油圧式の制振装置を世界で初めて採用したそうで、さすがにビクともしません。そして中は冷暖房完備でとても暖かいです。年中快適な「室内」なので安心して景色を見渡せます。目の前にはキタの中心街、遠くは大阪湾まで望め、昼間の景色も楽しめるし、夜景なんて絶好のポイント!!「街の宝石箱を1人占めっ」という気分ですが、4人乗りなので混んでいる時は相席を覚悟しておいて下さい。とにか

く、この観覧車は梅田の新名所となりそうです。

(大阪事務所 よしむら れいこ)



ビル屋上にそびえたつ観覧車



観覧車からの眺望



夕暮れ時、イルミネーションが点灯

アルパック (株)地域計画建築研究所

- 本社
- 京都事務所 〒600-8007京都市下京区四條通り高倉西入ル立売西町82・大和銀行京都ビル6F/TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764
- 大阪事務所 〒540-0001大阪市中央区城見1-4-70・住友生命OBPプラザビル15F/TEL(06)6942-5732 FAX(06)6941-7478
- 名古屋事務所 〒460-0008名古屋市中区栄3-18-1・ナディアパークビジネスセンタービル13F/TEL(052)265-2401 FAX(052)249-3925
- 東京事務所 〒160-0022東京都新宿区新宿2-5-16・霞ビル401/TEL(03)3226-9130 FAX(03)3226-9560
- 九州事務所 (株)九州地域計画研究所 〒810-0001福岡市中央区天神1-15-35・ホンダハビエ5F/TEL(092)731-7671 FAX(092)731-7673